



【先週 9月13日～9月19日の外食の出来事】

■「くら寿司」台湾で上場 中国や東南アジアに進出へ

「くら寿司」の子会社、アジアくら寿司は、台湾の新興市場「タイペイエクスチェンジ」に株式を上場した。調達資金は約5億台湾ドル(約18億円)。台湾での店舗増設に使うほか、中国や東南アジアなどへの進出資金に充てる。

■鳥貴族、対前年同月比50%台の既存店・全店売上高 8月

鳥貴族の2020年8月既存店売上高は、対前年同月比59.1%。内訳は客数54.7%、客単価108.1%であり、客数のマイナスを客単価のプラスでカバーできずマイナス成長となりました。全店売上高も56.9%でマイナス成長。

■三光マーケティングフーズ、`20年6月期(19年7月～`20年6月)の業績 減収赤字

2020年6月期 通期(2019年7月～2020年6月)の業績を発表。売上高73億9100万円(対前年比30.9%減)、営業損失20億900万円(-)、経常損失19億9800万円(-)、当期純損失27億1300万円(-)であった。

■食事券47都道府県で実施へ GoTo イート、北海道や福岡も

新型コロナ感染拡大で打撃を受けた飲食業界を支援する政府の「Go To イート」のプレミアム付き食事券事業は、実施できる見通しとなった。「イート」は、食事券と予約サイトを通じた飲食店利用によるポイント付与の2事業。

■くら寿司の最終赤字16億円 11～7月、米国店舗低迷

2019年11月～20年7月期の連結決算は、最終損益が16億円の赤字(前年同期は26億円の黒字)だった。国内の売上げが回復傾向となり、国内では黒字だったが、米国で展開する店舗の売上げの落ち込みが響いた。

■ジョイフル、107億円の融資枠確保

株式会社ジョイフルが、運転資金として107億円を伊予銀行などから融資枠として確保。7月以降、200店程度の店舗を閉鎖しており、第3四半期のコロナ禍の影響が少なかった時期にもかかわらず、既に25億円の最終赤字。

■サイゼリヤ、小型店の新業態 コロナ対応、宅配も

サイゼリヤは2021年4月までに東京都内に従来の6割程度の広さの小型店を出店する。コンビニエンスストア程度の広さで賃料や設備が少なくすむため、出店時の費用を半減できる。持ち帰りや宅配にも注力する。

■大戸屋HD取締役11人中10人を解任へ コロナ対応、株主提案を発表

コロナ対応は日、11月上旬に開かれる大戸屋の臨時株主総会で、大戸屋の現取締役11人のうち10人を解任する株主提案を行うと発表。コロナ対応は大戸屋株の約46%を保有しており、株主提案は可決される見通し。

■すし鮎子丸、自律歩行型AI配膳ロボット「サービスショット」を試験導入

アルファクス・フード・システム(AFS)は、外食産業向け自律歩行型完全AI配膳ロボット「サービスショット」を、鮎子丸が運営する「すし鮎子丸 習志野店」に試験的に導入したと発表した。